

◆プログラム：

1. 産学官連携事例発表（13:00～17:05 発表 40 分、質疑応答 5 分）

13:00～ 13:05	埼玉大学 副学長 川橋 正昭	開会挨拶
13:05～ 13:50  講演 1	埼玉大学 科学分析支援センター 准教授 藤原 隆司	<b>「森林保全とカエデ樹液の有効活用」</b> 埼玉県秩父地区は世界的に見て、多種多様なカエデのある地域である。これを持続可能な資源とし、山地の活性化につなぐことができないか構想を練ってきた。その結果、カエデの樹液を濃縮し、ミツバチに与えることにより、通常の花ハチミツとほぼ同じ組成の糖成分の代謝物を得ることができ、国内外に特許出願した。これをきっかけとして、樹液をいろいろな食品に広げることにより、山地の活性化につなげたいと考えている。
	特定非営利活動法人 秩父百年の森 副理事長 田島 克己	
	埼玉大学 地域オープンイノベーションセンター 知的財産シニアコーディネーター (特命教授) 角田 敦	
13:50～ 14:35  講演 2	ハラサワホーム株式会社 代表取締役 社長 原澤 浩毅	<b>「アレルギー対策住宅新規開発にかかわる医工連携事例」</b> (1) ハウスメーカー、前橋工科大学建築学部、群馬大学医学部の医工連携を実現させた。 (2) 目的は、アレルギー対策住宅への転居が、喘息やアレルギー性鼻炎などアレルギー疾患改善に有効か建築学・医学的に解析し、将来の住宅建築に役立てる。 (3) 環境面では、室内ダニ、かび胞子を含めた微粒子数が激減した。 (4) 医学面では、気道のアレルギー性炎症の改善と末梢血中の活性化 T 細胞の減少によりアレルギー疾患の改善が認められた。
	群馬大学 大学院医学系研究科 教授 土橋 邦生	
	群馬大学 産学官連携コーディネーター 塚田 光芳	
14:35～ 15:20  講演 3	栃木県産業技術センター 食品技術部 食品加工研究室 特別研究員 (チームリーダー) 渡邊 恒夫	<b>「二条大麦を利用した機能性食品の開発」</b> 栃木県特産の二条大麦は、全国でも 1, 2 位の生産量を誇る。しかし、その用途は限られ、食品としての消費が少ない。一方、二条大麦は、血圧上昇抑制作用を持つ γ-アミノ酪酸 (GABA) を増加させる酵素を内在する。そこで二条大麦中の GABA を富化する方法を開発し、富化した GABA を減少させることなく食品とするための加工方法を開発した。さらに、GABA を富化させた二条大麦が実際に血圧降下作用を有することを実験動物で確認した。
	株式会社 大麦工房ロア 代表取締役社長 浅沼 誠司	
	宇都宮大学 農学部 名誉教授 田中 秀幸	
15:30～ 16:15  講演 4	有限会社ジオテック 取締役 土田 寛	<b>「鉛直判定センサの開発とその応用例」</b> 開発原点は測量ポール・標尺等を鉛直に立てる支援センサ、離れた場所の観測機からの確認センサであり、鉛直判定に特化。気泡管採用によりセンサ部の野外での雷等の影響に強い。特徴はシンプル構造、低価格、感度設定自由。多数設置により防災分野での斜面崩壊前の初期変状をモニターし、次の対策につなげる有効な手段になり得る。その分野として高速道路、一般道路、鉄道等の長大のり面、急傾斜地、橋梁、重要構造物の傾斜監視など。
	茨城大学大学院 理工学研究科 教授 湊 淳	
	茨城大学 産学官連携イノベーション創成機構 元コーディネーター 小澤 淳	
16:15～ 17:00  講演 5	株式会社 CMS 専務取締役 江森 豊子	<b>「固液分離装置の非接触磁気浮上化と ベアリングレスモータ駆動技術の開発」</b> CMS社で開発され、平成 18 年より発売が開始された縦型固液分離装置 (LCSS) の高速化と大容量化を可能にするため、JST の研究開発資金及び埼玉県の補助金を得て CMS 社と東京理科大学が共同で行ったアキシャル方向に非接触支持する磁気浮上技術と、ベアリングレスモータを直結して回転筒を非接触で駆動するための技術開発の概要につき紹介する。
	諏訪東京理科大学 システム工学部 教授 大島 政英	
	東京理科大学 科学技術交流センター コーディネーター 末永 雅英	
17:00～ 17:05	宇都宮大学 教授 山村 正明	閉会挨拶

※各講演の発表者順番は変更になる場合があります。

2. 交流会&ポスターセッション（17:10～18:30）

上記発表事例に関連する資料、サンプル展示やデモ等を予定しています。個別に関係者への質問や名刺交換等を通じ、交流を深めて頂ければ幸いです。